



新本っ子

学校通信 No. 14

令和5年6月発行

新本小学校

【学校教育目標：豊かな人間性をもち、実践力のある子どもを育成する】

令和5年6月15日

新 自分で考える子 **本** 本気で取り組む子 **義** きまりを守る子 **民** みんな仲良く元気な子

地域伝承 赤米の田植え体験 ～5年生～

13日(火)、5年生は本庄国司神社の神田で赤米の田植えを行いました。赤米田植えは、5年生が毎年この時期に行う恒例行事。総社赤米大使の相川七瀬さんにもご参加いただき、子どもたちにとっても楽しみに迎えた当日となりました。



豊作を祈願する神事後、裸足で神田に入ります。児童は水田の泥に足を取られながらも、ぬるぬるする柔らかい感触を楽しんでいました。今年もご参加いただいた片岡聡一市長様に植え方、間隔などのアドバイスをいただき、いよいよ開始。

田植えでは横一列に並び、水田両端から引いたロープの赤い目印に沿い、苗を数本ずつ手に取り、ていねいに植えていきます。植え付けが完了すると、全員で後ろに下がって次の列。だんだん上手になり、植え付けも手際よくなり、市長さんや赤米保存会にも褒めていただきました。保存会、地域の方に手ほどきを受けながらも、最後まで自力で植え付けることができました。



終了後、報道各社のインタビューで児童は、「手植えをするところが楽しかった」「植え付ける稲の量(本数)」を計る(調整する)のが難しかった」など貴重な体験活動で気づいたことや楽しかった様子を伝えていました。

5年生は、地域伝承の赤米の学習をしています。赤米は玄米の種皮に赤い色素を含んだ古代米で、赤飯のもとになったものとされています。今では神様に捧げるお米(御神饌米(ごしんせんまい))とされ、伝承地域は新本地域も含め、種子島(鹿児島)、対馬(長門)と全国3地域しかありません。

伝承文化を学習する上で、多くの方に支えられ貴重な体験をすることができました。事前の準備や当日運営など、田植えに当たりお世話になった赤米保存会、神社、市役所、地域の皆様、また、当日駆けつけ温かく見守りいただいた保護者の皆様、そして田植えにご参加いただいた総社市長、片岡聡一様、総社赤米大使、相川七瀬様に心から感謝申し上げます。温かいご支援のお陰で子どもたちにとっても、心に残るよい思い出となりました。なお、5年生は2学期に稲刈り、とうす(もみすり)、とうみ(選別)の体験をする予定です。